



岩手医大医学部1年の4人と臨床研修医が一緒に生命尊重行政と地域医療の原点を学ぶ。

「生命尊重」学ぶ

児童から研修医まで来館

今年の深澤晟雄資料館は小中高校生から医学生や研修医まで相次いで来館し、資料館は「いのち」を学ぶ教育施設の様相を呈しています。

町内では湯田小4年生が1月に、湯田中1年生が7月に来館。8月にはこの春小中学校に着任した教職員が生命尊重の深澤精神を学びました。

一方、町外からはいずれも沢内病院での研修と併せて、5月に専大北上高校生5人。6月には岩手医大医学部1年生4人が来館しました。また、医科・歯科の臨床研修医3人も相次いで来館し、生命尊重行政が築いた地域医療の原点を学びました。

7月来館の湯田中1年の高橋優人君は「改めて深澤村長のすばらしさがかかったし、また来たいと思う。生命の大切さもよくわかり、自分も人の命に貢献できる仕事につきたい」

同じ7月来館の岩手医大臨床研修歯科医師の太田麻衣子さんは「深澤村長の強い思いや考え、生き方に尊敬を覚えた。小さなことから始め、壁にぶつかってもそれに打ち勝つ気持ちを教わった」とそれぞれ感想を述べています。

沢内病院に最後の奉仕



深澤晟雄の会7月恒例の病院環境整備の奉仕活動は、7月12日午前9時から町民有志30人が参加して行われました。

深澤村長の胸像が見守ってきた沢内病院は、今秋の新病院オープンによって、今回が最後の奉仕活動になりました。男性陣は草刈機を持ち込んで病院周辺や駐車場周辺の草刈り。

女性陣は病院や関係施設周辺の草取りなど環境美化に丹精込めて、沢内病院に感謝とお別れの奉仕活動となりました。

金一封に感謝

陸前高田市	千田和可様
新潟県新潟市	石川貞彦様
茨城県日立市	古川義徳様
秋田県秋田市	外山宗平様
島根県松江市	岩田昭夫様
東京都町田市	尾崎裕子様
盛岡市中堤町	高橋芳雄様
東京都府中市	東浦康友様
新潟県村上市	吉川真嗣様



終戦記念日に寄せて 生命尊重と戦争放棄

～ 深澤精神を現代に問う ～

8月15日は終戦記念日。生命尊重理念に燃える深澤精神は「戦争は呪うべきもの」で、憲法第9条の「戦争放棄の宣言を汚すことを恐れる」という言葉を遺しています。まさに、深澤精神を現代に問うべく、今一度この言葉をかみしめたいものです。

人を殺して得られる幸福など断じてあり得ません。
最大の人間苦をもちたらず最大のものは戦争であります。

村長就任の昭和32年秋の戦没者追悼式での言葉です。
「各位の犠牲の尊さに私たちは敬虔の心と感謝の祈りを捧げているのであつて、決して天皇陛下万歳の尊さに泣くのではありません。決して植民地獲得の尊さに頭をたれているではありません。いかに戦争の呪

日本は自衛の為にやえ一切戦争をしない、従つて武力やえも一切放棄することを宣言しています。かかる徹底した戦争放棄は世界中始まつて来ないことではありません。

戦争放棄を宣言した以上は国際平和の先頭に立つて邁進せねばならぬ。

昭和22年、青年会主催の講座で深澤晟雄は「時事問題」を担当し、公布直後の新憲法を解説しました。右はその解説原稿から戦争放棄の第9条解説の抜粋です。その原稿は「よほど国民、国家が頭を切り替えぬ限り、この宣言を汚す結果を恐れるものであり

昭和22年、青年会主催の講座で深澤晟雄は「時事問題」を担当し、公布直後の新憲法を解説しました。右はその解説原稿から戦争放棄の第9条解説の抜粋です。その原稿は「よほど国民、国家が頭を切り替えぬ限り、この宣言を汚す結果を恐れるものであり

ます。例えば無抵抗の抵抗を唱えるインドのガンジーの如き偉大な思想家である政治家が現れることを衷心より祈らざるを得ないのであります」と結んでいます。
(及川和男著「命見つめ心起こし」より)

入会者募集中です。点線から切り取ってお申し込み下さい。

深澤晟雄の会 入会申込書 (〇印⇒ 正会員 賛助会員)

私は深澤晟雄の会の活動目的に賛同して下記のとおり入会を申し込みます。

平成 年 月 日

氏名			年齢	歳	後日の送金内訳	
住所	〒				年会費	円
連絡先	電話	FAX		寄付金	円	
	Eメール			合計	円	
	印刷物等のメール送信 (〇印)		1 メール可	2 メール不可		

送付先／〒029-5505 岩手県和賀郡西和賀町湯本30-86-10 深澤晟雄の会事務局 (FAX 0197-81-1723)